

胴ベルト型(着脱巻取式)墜落制止用器具取扱説明書

種類:胴ベルト型
 ショックアブソーバの種別:第一種
 使用可能質量:100kg
 最大自由落下距離:1.8m
 落下距離:3.6m

要保存

厚生労働省「墜落制止用器具の規格」適合品

■この度は当社製胴ベルト型 墜落制止用器具をお買い上げ頂き、お礼申し上げます。
 この製品を使用する前にこの取扱説明書を最後まで読んで頂き、充分ご理解の上使用してください。
 【この取扱説明書は読んだあと大切に保管してください。】

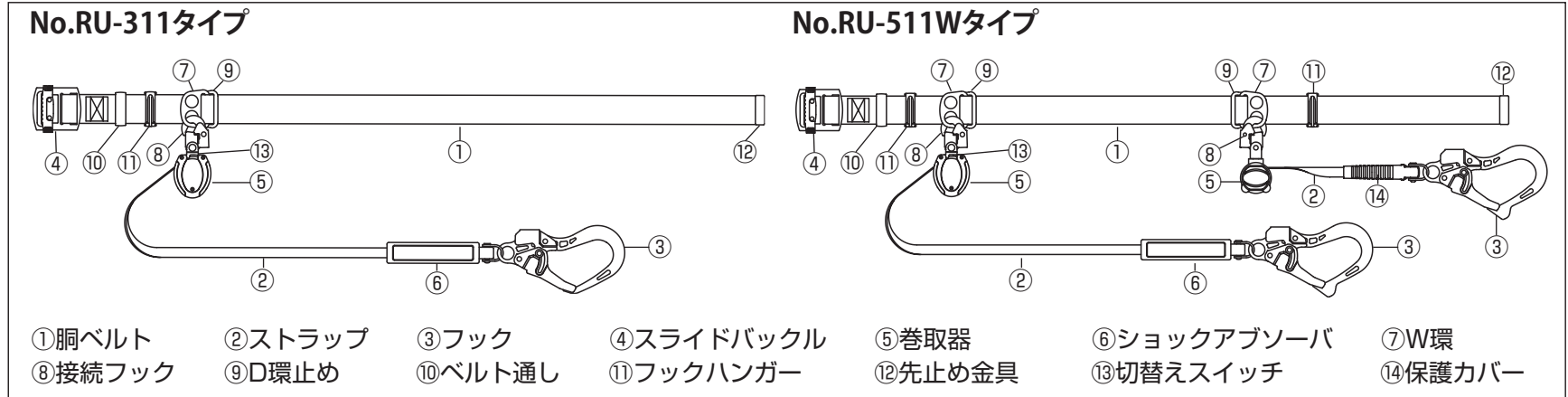
■この製品は労働安全衛生法第42条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に合わせて製造したものです。
 ■厚生労働省基発0622第2号(平成30年6月22日)「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に従い適切に、安全に使用してください。
 ■疑問や不明な点がございましたら、裏面の当社消費者相談室にご連絡ください。
 ■この取扱説明書を紛失した場合も同室までご請求ください。

◆用途 この製品は建設現場、工場等の高所作業で作業者の墜落を制止する為に使用するものです。

※墜落制止用器具の選定について

適切な墜落制止用器具の選定には、フルハーネス型又は胴ベルト型の選択の他、フック等の取付設備の高さに応じたショックアブソーバのタイプ、それに伴うランヤードの長さが含まれ、事業者がショックアブソーバの最大の自由落下距離や使用可能な最大質量等を確認の上、作業内容、作業箇所の高さ及び作業者の体重等に応じて適切な墜落制止用器具を選択する必要があります。
 墜落制止用器具の種類、ショックアブソーバの種別、使用可能な質量、自由落下距離、落下距離については、上記枠内及びショックアブソーバに記載しています。
 また、墜落制止用器具を装着する前にこの取扱説明書を確認し、安全上必要な部品が揃っているか確認してください。

◆胴ベルト型着脱巻取式 各部名称(形状は一例を示します。)

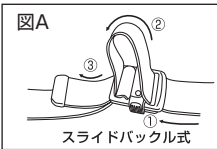


- ①胴ベルト
- ②ストラップ
- ③フック
- ④スライドバックル
- ⑤巻取器
- ⑥ショックアブソーバ
- ⑦W環
- ⑧接続フック
- ⑨D環止め
- ⑩ベルト通し
- ⑪フックハンガー
- ⑫先止め金具
- ⑬切替えスイッチ
- ⑭保護カバー

◆使用方法

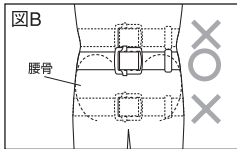
■胴ベルトの正しい通し方

バックルの裏側(図A①)からベルトを表側へ出し、図A②から③のように通してください。通し方を間違えるとバックルの機能を失いますので充分注意してください。



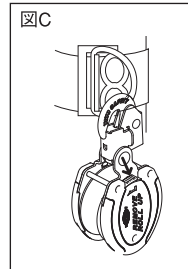
■胴ベルトの締める位置

胴ベルトは腰骨のところの正しい位置に締めてください。(図B)



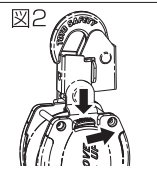
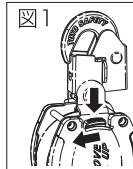
■着脱巻取式ランヤードの取付け方

- ①安全装置を押しながら外れ止め装置を押しフックを開口する。
- ②必ず、W環に確実に取付け、外れ止め装置が閉じていることを確認する。



■切替えスイッチの操作方法

- 切替えスイッチを押しながら図1矢印方向に動かすとロープが常に巻取器に引き込まれる状態になります。(フリー式)
- 切替えスイッチを押しながら図2矢印方向に動かすとストラップを引き出した長さで固定される状態になります(ギア式)



⚠ 危険

誤った使い方をしますと墜落制止用器具が損傷したり落下事故のおそれがあり大変危険です。絶対に下記の項目を守って使用してください。

<p>1. 墜落制止用器具の取付設備は、フックが外れたり、抜けたりするおそれのないもので、墜落制止時の衝撃力に対し充分耐え得る堅固なものであること。</p>	<p>2. ロープ、ストラップをアングル等の鋭い角に回し掛けするとロープ、ストラップが破断する場合があります。やむをえない場合は当て布等で保護してください。</p>	<p>3. 斜めの構造物や逆し字形的ように墜落時にフックがずれる箇所には掛けないでください。</p>	<p>4. 分解又は改造等は絶対にしないでください。</p>
--	--	--	--------------------------------

⚠ 警告

誤った使い方をしますと墜落制止用器具が損傷したり落下事故のおそれがあります。絶対に下記の項目を守って使用してください。

<p>1. フックを取付ける位置は腰よりもできるだけ高い位置に取付けてください。</p>	<p>2. ランヤードに表示された落下距離を確認し、それ以下の位置で作業を行わない。墜落制止時に床面又は下方の障害物に接触する恐れがあります。</p>	<p>3. フックは正しく掛けてください。誤った掛け方をしますと墜落制止時に構造物から外れる危険性があります。</p>	<p>4. 墜落制止用器具は使用可能な最大質量が定められているので墜落制止用器具を使用する者の体重と装備品の合計の質量が使用可能な最大質量を超えないようにしてください。</p>
<p>5. フックは、可能な限り、墜落した場合に振り子状態になって物体に激突しないような場所に取付けてください。</p>	<p>6. 水平親綱を使用する作業者は原則として1スパンに1人としてください。</p>	<p>7. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバに溶接の火花、酸、溶剤、高熱の物質及び化学薬品類が触れないようにしてください。</p>	<p>8. ロープの縮みが大きく、径が太くなったものは強度低下している場合がありますので取替えてください。</p>

- 9. この墜落制止用器具は墜落時の災害を防止するものです。それ以外の用途には絶対に使用しないでください。(車の牽引、重量物のつり上げ等)
- 10. 墜落制止時に胴ベルトがずり上がり、安全な姿勢が保持できなくなることはないように、緩みなく確実に装着してください。
- 11. バックルは正しく使用し、ベルトの端はベルト通しに確実に通すこと。
- 12. 一度でも大きな衝撃を受けた墜落制止用器具は、外観に変化がなくても再度使用しないでください。
- 13. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバは高温に弱い性質がありますので、50℃以上の環境では使用しないでください。
- 14. 製造元以外でストラップ、ベルト、ショックアブソーバの縫製やロープのさつま加工は絶対にしないでください。
- 15. ショックアブソーバのカバーが破損したものは使用しないでください。
- 16. ストラップの引き出し及び巻取りはゆっくりと行い、ストラップがねじれたり、巻取器のストラップの出入口に強くこすらないようにしてください。
- 17. 接続フックは必ず胴ベルトのW環に取り付けてください。フックハンガー等に掛けると必要強度が得られず墜落の危険性があります。
- 18. 接続フックの外れ止め装置が確実に閉じていることを目視で確認してください。

⚠ 注意

安全にお使いいただくためにお守りください。

- 1. この墜落制止用器具は1本専用です。U字つり作業には使用しないでください。
- 2. 墜落制止用器具やランヤードを投げたり、引きずったりしないでください。故障の原因になります。
- 3. ロープ、ストラップが雨等で濡れると電気をよく通します。感電には充分注意してください。
- 4. 胴ベルトとランヤードの組み合わせは、同一メーカーのものを組み合わせてご使用ください。

■保守・保管

1. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバは日光、熱、雨、薬品等の影響をうけますと性能の低下や伸縮する場合がありますので前記の影響のない場所に保管してください。尚、ストラップは必ず収納して保管してください。
2. 雨等でフックやバックル部が濡れた場合は乾いた布等で拭き取ってください。
3. バックル、フックの可動部分やスプリング等に砂や土が付着すると機能が低下し、錆付きの原因になりますので、時々手入れをし注油してください。
4. ロープ、ストラップ、ベルト、ショックアブソーバが濡れたり汚れた場合は、ぬるま湯で洗い陰干しをしてください。ただし、50℃以上になる場所や熱風等での乾燥は絶対にしないでください。
5. 製品の上に角張ったものや、重いものは置かないでください。

■点検・廃棄

墜落制止用器具は使用前及び定期的に点検して頂き、下記の廃棄基準に達すれば新しいものと取替えてください。

点検部分	点検項目・廃棄基準		点検部分	点検項目・廃棄基準	
巻取器	引き出し・巻取り		胴ベルト ショックアブソーバ	摩耗・擦切れ・切傷・焼損・溶解	
		変形・割れ・ヒビ		両耳	
ストラップ	摩耗・擦切れ・切傷・焼損・溶解		バックル	変形	
	両耳			幅の中	
環類・金具類	変形		大口径フック	摩滅・傷	
	摩滅・傷			外れ止め装置の開閉作動の悪いもの	

◆交換のめやす(耐用期間)

使い方によって異なりますが、交換の目安としてはランヤードで使用開始より2年、ランヤード以外のものについては3年ぐらを目途にしてください。屋外で使用する機会が多い場合は前記期間より短くしてください。(紫外線等により劣化します。)

ただし、耐用期間内であっても点検項目にしたがって点検を実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取替えてください。使用を開始した年月を必ずご記入ください。

また、ベルト、ランヤード等商品を取替えた時はその取替え年月も必ずご記入ください。

(胴ベルトに取付けているラベル)

使用開始年月

使用・取替えなどの開始年月を必ずご記入ください。

開始年月	
取替年月	
氏名	

■厚生労働省「墜落制止用器具の規格」

性能	規格値	
胴ベルトの強さ	15.0kN以上	
ロープ、ストラップなどの強さ	15.0kN以上	
フックの強さ	11.5kN以上	
ショックアブソーバの強さ	15.0kN以上	
巻取器の強さ	11.5kN以上	
ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能	衝撃荷重	4.0kN以下
	ショックアブソーバの伸び	1.2m以下
胴ベルト型組合せ品の耐衝撃性及び関連性能	衝撃荷重	4.0kN以下
	ショックアブソーバの伸び	1.2m以下

■墜落制止用器具に関する用語について

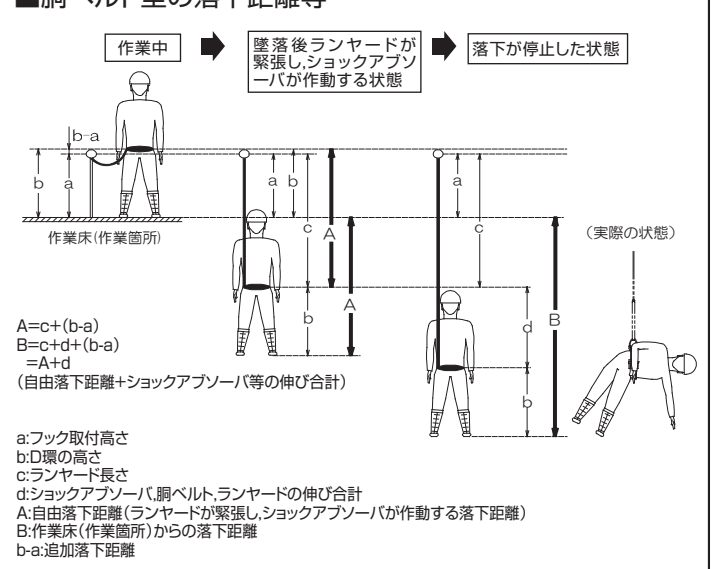
◆自由落下距離

自由落下距離とは作業者がフルハーネス又は胴ベルトを着用する場合において、フルハーネス又は胴ベルトにランヤードを接続する部分の高さからフックの取付設備等の高さを減じたものにランヤードの長さを加えたものを言う。(図のA)

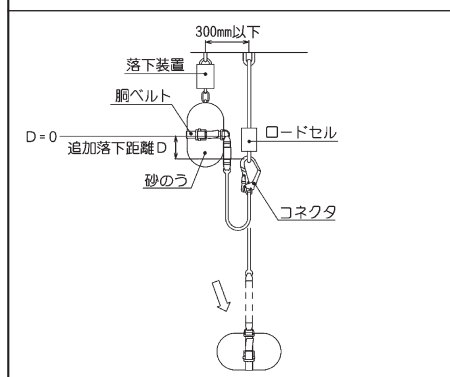
◆落下距離

落下距離とは作業者の墜落を制止するときに生じるランヤードの伸び、フルハーネス又は胴ベルトの伸び等に自由落下距離を加えたもの。(図のB) また、フックを掛ける取付設備と、ランヤードを接続する環との高さの差を追加落下距離という。

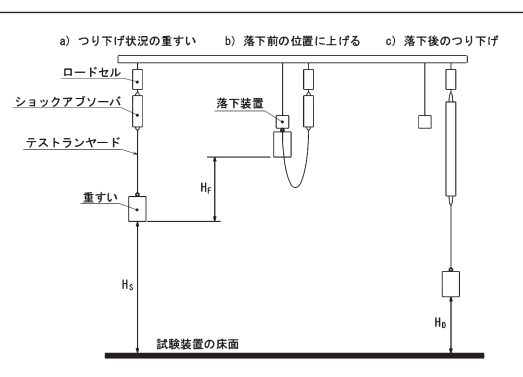
■胴ベルト型の落下距離等



胴ベルト型組合せ品の耐衝撃性及び関連性能



ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能



【発売元】 株式会社 トヨセフティ
 兵庫県三木市別所町巴21-1 三木工場公園
 URL: http://www.toyo-safety.co.jp

消費者相談室 TEL.0794-83-0155

日本安全帯研究会会員

【製造元】 東洋物産工業株式会社